

2. 地区の災害特性及び防災対策の方向性の補足（津田沼小学校区）

1) 地区内の人口状況：平成25年との比較

◆市総人口：161,047人/H25年 ⇒ 175,065人/R5年 【14,018人増】

	H25年3月		R5年3月		備考
	人数	割合	人数	割合	
地区全体	12,045人	⇒	12,057人	★12人の増加	
0歳～9歳	1,600人	13.3%	1,394人	11.6%	929人
10歳～14歳					465人
15歳～19歳	8,536人	70.9%	8,334人	69.1%	455人
20歳～29歳					1,879人
30歳～59歳					5,416人
60歳～64歳					584人
65歳～69歳	1,908人	15.8%	2,328人	19.3%	543人
70歳～79歳					1,039人
80歳以上					746人

●全体としての人口は微増、14歳以下の人口が減少
●65歳以上の人口数対生産年齢人口数比★1人対3.6人

2) 丁目ごとの標高

◆津田沼

丁目	最高	場所	最低	場所	高低差
2丁目	15.8m	17番千葉工大正門	5.5m	3番小倉駐車場	10.3m
3丁目	14.1m	6番17号付近の道路	4.7m	2番JR総武藤崎ガード	9.4m
4丁目	18.1m	2番10号付近の道路	6.7m	1番21号東漸寺入口	11.4m
5丁目	8.2m	4番19号付近の道路	4.4m	2番5号付近の道路	3.8m
6丁目	6.8m	13番21号付近の道路	2.3m	2番29号国道14号上	4.5m
7丁目	13.2m	13番18号付近の道路	2.4m	2番9号独身寮南道路	10.8m

◆鷺沼台

丁目	最高	場所	最低	場所	高低差
1丁目	16.7m	6番6号付近の道路	8.0m	9番11号付近の道路	8.7m

◆谷津町

丁目	最高	場所	最低	場所	高低差
1丁目	11.3m	1号付近の道路	2.5m	16号付近の道路	8.8m
4丁目	12.8m	587号付近の道路	11.8m	4丁目高澤駐車場東側	1.0m

※国土地理院地図データから職員が手作業により、検索しているため、多少のズレ有

3) 丁目ごとの災害特性：全壊・半壊棟数＝千葉県北西部直下地震想定時

丁目	揺れ		液状化	河川氾濫	内水氾濫	高潮	土砂災害
	全壊	半壊	全半壊	氾濫	氾濫	浸水	
津田沼2丁目	14棟	38棟	0棟	なし	0棟	4棟	0棟
津田沼3丁目	39棟	68棟	0棟	なし	118棟	なし	7棟
津田沼4丁目	9棟	23棟	0棟	なし	0棟	なし	8棟
津田沼5丁目	58棟	97棟	0棟	なし	0棟	78棟	13棟
津田沼6丁目	61棟	103棟	0棟	136棟	228棟	363棟	0棟
津田沼7丁目	33棟	83棟	0棟	101棟	147棟	199棟	12棟
鷺沼台1丁目	17棟	44棟	0棟	なし	29棟	なし	0棟
谷津町1丁目	2棟	5棟	0棟	25棟	16棟	31棟	0棟
谷津町4丁目	0棟	1棟	0棟	なし	0棟	なし	0棟

4) 住民の視点から見た地区の災害特性：H25年ワークショップ

連番	区分	意見等内容
1	防災体制	<p>◆個人所有のアパートが多く、経営者や若年居住者の防災協力の意識が薄い。</p> <p>◆災害時における要配慮者の支援対策を進めるにあたって、「個人情報保護」が障害となり、マイナスに働いてしまうこともある。</p>
2	避難所・避難場所	<p>◆「避難所」と「避難場所」のそれぞれの位置づけや役割が十分に住民に周知されていない。</p>
3	避難経路	<p>◆津田沼4丁目の菊田保育所(※現在は菊田みのり保育園)にあるアスファルト道路は、老朽化・劣化による亀裂が発生しており、避難時には注意を要する。</p> <p>◆JR線、京成線の高架やその付近にあるがけは、災害時に被害が発生するおそれがある。</p>

5) 住民の視点から見た防災対策の方向性：H25年ワークショップ

連番	区分	意見等内容
1	防災体制	<p>◆自助・共助の更なる徹底を進めるために、自主防災組織等の整備を進める。</p>
2	情報共有	<p>◆マンションにおける防災対策について、説明会等によって情報共有を図る。</p>
3	避難所・避難場所の確保	<p>◆避難所・避難場所について共通理解を持たせるため、マップ等で分かりやすくまとめ広く周知する。</p>
4	水の確保	<p>◆個人で所有している井戸の状況を把握し、災害時に活用できる体制を検討する。</p>
5	防災教育・防災広報	<p>◆自主的な備蓄や自助に関わる啓発情報を住民に提供していく。</p>